

第五回アフリカ開発会議（T I C A D V） （概要と評価）

平成 25 年 6 月 3 日
外務省 TICAD V 事務局

1. 概要

- 6 月 1－3 日，横浜にて，第五回アフリカ開発会議（T I C A D V）を開催。同会合には，39 名の国家元首・首脳級を含むアフリカ 51 か国のほか，ドナー諸国やアジア諸国，国際機関及び地域機関の代表並びに民間セクターや N G O 等市民社会の代表等 4, 500 名以上が参加。（別添 1：出席国・機関の首席代表一覧）また，全ての共催者の長（潘基文国連事務総長，ズマ・アフリカ連合委員会（A U C）委員長，キム世界銀行総裁，クラーク国連開発計画総裁）が参加。
- 「躍動するアフリカと手を携えて (Hand in Hand with a More Dynamic Africa)」を基本テーマとし，今後のアフリカ開発の方向性について活発な議論が行われた。また，民間セクター主導による成長の重要性を反映し，アフリカ首脳と日本の民間企業の代表が直接対話を行う「民間との対話」セッションが初めて実施された。
- 安倍総理は，ハイレマリアム・エチオピア首相（A U 議長）とともに，共同議長を務め，基調演説等を行ったほか，アフリカ諸国の首脳や国際機関の長等 56 名と会談を行った。さらに，岸田外務大臣，松山外務副大臣及び阿部外務大臣政務官も，各国閣僚や国際機関代表と会談等を実施。また，森元総理は，アフリカ首脳とともに，共同議長代理を務めた。
- この他，野口英世アフリカ賞授賞式・記念晩餐会をはじめとする関連行事や，「人間の安全保障シンポジウム」，国際機関や N G O が主催する，多数のサイドイベントが開催された。
- 会議の成果文書として，「横浜宣言 2013」（別添 2：骨子）と「横浜行動計画 2013－2017」（別添 3：骨子）の 2 つの文書が採択された。

2. T I C A D V の成果

- 現下のアフリカの経済成長を踏まえつつも，成長の恩恵をあまねく行きわたらせることを目指すというアフリカ開発の方向性を国際社会に打ち出した。安倍総理は，本会合での発言において，アフリカの自助自立，成長の重要性を示し，また，アフリカへの早期訪問を表明した。
- 日本 のアフリカ支援の基本姿勢 を示すとともに，O D A 約 1.4 兆円を含む官民による最大約 3.2 兆円の取組や，「安倍イニシアティブ」を含む産業人材育成及びサヘル地域への開発・人道支援を内容とする，アフリカ支援パッケージ（別添 4：支援策概要）を打ち出した。アフリカ側から，20 年にわたる T I C A D プロセスへの日本の貢献と新たな取組を評価する声が多く寄せられた。
- 安倍総理及び岸田外務大臣他による二国間会談や経済界との交流，議員外交等を通じ，日本の支援への感謝が表明され，関係強化の方針が確認された。
- 46 の公式サイドイベントのほか，各種の関連セミナーやイベント等を通じ，アフリカと我が国国民との交流が深まったほか，我が国におけるアフリカに対する理解・関心が深まった。

（了）